

パペットてなもんや「ゴキゲンな人形劇」(2016.2.13)

1本目 手袋とわかっているのに、だんだんアリに見えたり、青虫に見えたりする不思議。これは子どもでもよくわかりますし、大喜びでしょう。手袋の色や動き方で何でも表現できるんですね。ドラマもあって面白かったです。植木鉢さんの喋り方がベタベタの関西人でとても面白かったです。指がわかれているところがヒビの部分、というのが、後ろの方に見えたかどうか、最初の一回だけは指の股を大きく開いたほうがよかったかも知れません。青虫がちょうちょになるシーンの植木鉢さん、ここも後ろの方にもわかるようにもっと動きが大きく身悶えする感じがあると、ちょうちょになってからのすっきり感が出てよかったのではないのでしょうか。

蟬の音がうるさいのはわかるのですが、後ろでしゃべる人との声のバランスをもう少し考えて、うるさいけれども、セリフは聞こえるようにしたほうが良いと思います。

バッタと青虫の動きが似ていました。バッタは跳ぶ感じを、青虫は尺取り虫みたいな動きを入れたほうが良かったと思います。

2本目 日常よくあることを題材にしている、大人は特に、誰もが「あるある！」と共感が持てたと思います。セリフがほとんどなく、カラスの「カーン」とか「ソファー r」とかが、大人も子どももわかる「音」で楽しめました。セリフがない分、想像力が掻き立てられます。人間の役の人形の声もいろいろ想像できました。

そして、人形と小道具のクオリティの高さ！ ソファのバネなど素晴らしいです。何度も観たくなる作品でした。

3本目 同じく、白菜などの小道具のクオリティはすごいです。ただ、3本目とあって、全体に少し疲れが見えました。特にばあちゃんはもう少しハツラツとしていて欲しかったです。

人形、ですが、右手がブラブラするのが気になります。構造上しかたがないのでしょうか。と言って二人遣いにするとそれはそれで圧迫感がありますし、今後の課題ですね。

ラストでフレームを出して、ばあちゃんが撮った写真を再現するのはいいのですが、1枚だけ奇跡的にうまく撮れていたリアクションが薄くて残念でした。セリフで「わ～撮れてた～」とか言うのも説明的ですが、もう少し面白いオチになったかもしれません。

イノシシが一匹いなくなってしまったのを表現する、感情を乗せた「ブヒ」、見つかって嬉しい「ブヒ」、今後研究してみてください。